

ほうこん

題字・清水英夫

GALAC・8月号・付録
2014年8月6日発行(毎月1回6日発行)
昭和43年3月8日第三種郵便物許可
〒160-0022
東京都新宿区新宿5-10-14 中村ビル2F
NPO法人放送批評懇談会
TEL(03)5379-5521/FAX(03)5379-5510
ホームページ <http://www.houkon.jp/>
Eメール kondankai@houkon.jp
編集・橋本 隆

第10回通常総会開催 事業報告、決算、 事業計画、予算承認

◆NPO法人放送批評懇談会 第10回通常総会報告

6月14日(土)NPO法人放送批評懇談会の第10回(2014年度)通常総会を新宿三丁目会議室で開催した。

午後2時45分の出席者は26名(開会后若干増加、閉会時出席者28名)、委任状提出者は89名で、合わせて117名となり、当会正会員192名の2分の1を上まわり、総会は成立した。

審議の概要は以下の通りである。
第1号議案(議長の選任)

出席正会員の堀木卓也氏が推薦され選任された。

第2号議案(2013年度事業報告)

総務、出版編集、選奨表彰、企画開催、マイベストTV賞、50周

年委員会の各事業ごとに委員長、担当者から報告があり、拍手で承認された。

第3号議案(2013年度収支決算)

事務局長より2013年度の決算案と50周年特別会計の決算案が報告された。

2013年度は収入が予算を上回り、費用の節減に努力して約540万円の黒字となった。

鈴木典之監事より①監査の結果、決算報告は適正である。②予算とのバランス、費用の節減も工夫されており、全て健全で正しく処理されているとの報告があった。議案は拍手で承認された。

第4号議案(第10期、11期役員) 定款第14条1項にしたがって、理事会準備会で作成された第10期、

11期の理事候補者25名が提案され、賛成多数で承認された。ここで総会を一時中断して、新しく選任された理事による第1回理事会を開いて、互選によって音理事長をはじめ、理事の役職を決めた。

監事2名は引き続き隈部紀生氏、鈴木典之氏にお願いすることとし、総会を再開して新役員が承認された。

*新役員は別掲の通り。

第5号議案(2014年度事業計画)

各委員長、担当者より新年度の事業計画が提案され、承認された。

第6号議案(2014年収支予算)

事務局長より、総額8745万円の予算案を説明、提案し、拍手で承認された。

この後、総会議事録に議長と共に署名する議事録署名人2人を選任して午後4時40分に総会を終了した。

◆6月理事会報告

6月14日総会に先立って6月理事会を開催した。

1. 総会議案の承認

総会に提案する議案について審議した。

事業報告案、決算案、事業計画案、そして予算案について、各事業担当の委員長、担当者からの説明があり、承認した。

橋本専務理事より50周年委員会の解散が提案される。↓了承。

2. 委員会活動報告

◇出版事業委員会 飯田委員長

・5月から内藤圭介さんが編集スタッフに加わった。

◇選奨事業委員会

〈テレビ委員会〉丹羽委員長

・5月30日に5月度の月評会を開催した。4本の月間賞についての説明・先月承認していただいた「みんな

でテレビを見る会」は7月11日に開催する。

〈ラジオ委員会〉桜井委員長

・6月23日に定例会を開催する。

〈CM委員会〉五井委員長

・6月24日に定例会を開催する。

〈報道活動委員会〉市村副委員長

・11月ごろに制作者と語る会を開催する予定。

◇企画事業委員会 碓井委員長

・特に活動はなし。

◇マイベストTV賞プロジェクト滝野プロジェクトリーダー

・マイベストTV賞のプレゼンターが贈賞式直前になって決まったが、無事終了した。

3. その他

・正会員入会・退会の件

第10期、第11期役員

理事長	音好宏	
副理事長	橋本隆 <small>(選奨事業委員会 ラジオ部門委員長)</small>	
専務理事	藤田真文 <small>(総務担当)</small>	
常務理事	川喜田尚 <small>(企画事業委員長)</small>	
	飯田みか <small>(出版編集委員長)</small>	
	丹羽美之 <small>(選奨事業委員会 テレビ部門委員長)</small>	
理事	藤久ミネ <small>(選奨事業委員長)</small>	
	稗田政憲 <small>(選奨事業委員会 CM部門委員長)</small>	
	鈴木嘉一 <small>(選奨事業委員会 報道活動部門委員長)</small>	
	滝野俊一 <small>(マイベストTV賞 プロジェクトリーダー)</small>	
	石井彰	市村元
	入江たのし	碓井広義
	小田桐誠	茅原良平
	上滝徹也	小林毅
	坂本衛	桜井聖子
	嶋田親一	古川柳子
	水島宏明	山田健太
	中島好登	
監事	隈部紀生	鈴木典之

【退任】
理事・五井千鶴子、田中早苗、中町綾子

〈入会〉

出田幸彦さん、鶴飼一嘉さん、氏家夏彦さん、木村幹夫さん、日下倫子さん、永須智之さん、服部千恵子さん、松本しのぶさん、横川紀子さん、吉江一男さん、若尾一彦さん

〈退会〉

堀川恵子さん

◆次回以降の理事会

7月 7月30日(水)

【出席】音好宏、橋本隆、上滝徹也、藤田真文、飯田みか、藤久ミネ、碓井広義、丹羽美之、桜井聖子、五井千鶴子、滝野俊一、石井彰、市村元、小林毅、嶋田親一、中町綾子、稗田政憲、中島好登

会議記録

〔6月〕

14日	理事会・第10回通常総会
23日	(選奨)ラジオ定例会
24日	(選奨)CM定例会
29日	(選奨)テレビ月評会

カメラマンの楽しさを伝えたい!

安部裕

脚本家を目指し三重県から上京。入学した日芸放送学科で自らの才能の無さに気付き挫折。卒業後、共同テレビジョンに入社。カメラマンの部署に配属され、あつと言う間に23年。雲仙普賢岳噴火取材を皮切りに、阪神大震災、オウム事件、オリンピック等カメラマン前半は報道取材に従事。ディレクターとして番組制作も経験しました。2000年に入ってから、バラエティやドキュメンタリー、企業VPなどの撮影と技術プロデュースを手掛けました。

この4月から母校で教鞭を取る事になり、共同テレビを3月で退職。40歳代半ばでの転職です。共同テレビ時代、新人には「一年目はNOと言いな。誘われたら断るな」と教えて来ました。大学教員一年目。自ら言い続けた事を守ろうと決意。そんな時、中町綾子先生から「放送批評懇談会いかがですか?」とお誘いを受けました。自分の信念に従い即決。一年目、何を言われても断りません。若輩者ですが宜しくお願い致します。

新入正会員自己紹介

撲滅対象種からの脱却目指して

岩崎信道

新聞記者になって28年になります。経歴を語るとき、まず大阪、東京本社ですごした社会部を挙げ、現部署(学芸部放送担当)のことはつい後回しにしています。会社の指示とはいえ、後ろめたさがあるのです。おれにメディアの取材をする資格があるのか? ミスキャストじゃないのか、と。

事件関係者の顔写真をより早く、たくさん集める。沈黙する取材相手の口を強引にこじ開けて特ダネをとる――。

社会部時代、そのために違法スレスレの「裏技」を使ったことは数知れず。取材上の権利問題がクローズアップされるたび、「顔写真集めをしたこともない者にとやかく言われたくない!」などと、うそぶいておりました。時代は変わり、当時の私みたいな記者は撲滅対象種でしょう。このたび、放送担当の大先輩、鈴木嘉一さんのお誘いにより入会いたしました。どうぞよろしくお願いたします。

新入正会員自己紹介

萩本さんの言葉

太田省一

「もっといっぱいテレビ見て」。萩本欽一さんにもらった言葉を今でも時々思い出す。4年ほど前、是枝裕和さん演出の「悪いのはみんな萩本欽一である」という番組があり、そこで私は萩本さんと「対決」する役回りを与えられた。他にも三宅恵介さん、土屋敏男さんと錚々たる方々がいて場違いもいいところだったが、バラエティ番組の歴史を研究する社会学者ということで出演となったのである。冒頭の言葉を萩本さんからもらったのは、その収録が終わって私がお挨拶に伺ったときである。

私ととにかく私はテレビが好きで見続けてきた。そして今は、テレビについて物を書くようにもなった。だがテレビについて何がわかったかとか聞かれても、いまだに何もわかっていないような気がする。ならばまずテレビを見続けるしかないのだから。そんな励ましとして、萩本さんの言葉は胸に刻まれている。今回の入会が、テレビが少しでもわかるためのきっかけになればと思っている。

魅力的なコンテンツを探し続けたい

汲田亜紀子

ご承認ありがとうございます。

現在フリーランスで、マーケティングに
従事しています。これまで多岐にわたる分野の商品・サービスのプロジ
ェクトに参画してきましたが、学生
時代から映画・音楽・演劇やサブカ
ルチャーに心酔し、その「好き」が
高じて仕事でもコンテンツやクリエイ
ティブ分野のマーケティングに関
わるようになりました。中でもテレ
ビ番組やCMなど「放送コンテンツ」
に関わるテーマはライフワークにな
りつつあります。

自分自身が一人人として作品を楽
しみつつ、多くの生活者の生の声に
耳を傾けてきた実感として、今だか
らこそ放送コンテンツにしか担えな
い役割があると確信しています。

人の心のひだに入り込み、人と人
を繋ぐシナプスのような要となり、
新たな文化を創造する。そのような
良質な魅力的な作品の発掘に貢献で
きれば、こんなに嬉しいことはありません。

新入正会員自己紹介

活字メディアの人間です

内藤圭介

テレビ情報誌「TVガイド」(東京
ニュース通信社)の編集者を9年間
務め、独立してからはメディア研究
誌「AURA」(フジテレビ調査部)
を2年間担当させてもらいました。
そのほか、テレビ情報誌の編集制作
や番組関連書籍の企画編集制作など、
活字メディアの人間として放送の隣
にちゃっかりと居座った人生を歩ん
できています。

1952年生まれのM3。テレビ
っ子世代のど真ん中です。幼少期は
「月光仮面」を見て正義に目覚め、少
年期には親に隠れて見た「11PM」
で別のものにも目覚めてしまいました。
た。社会人になってからは、仕事の
一部になりましたが、それでも、や
はりテレビは娯楽の王様だと思っ
ている人間の一人です。王様もまだ60
歳代。メディア界にはすでに万能細
胞へとなるE.S.P.という原理が発見
されているので、この後、王様がど
のように変わっていくか? そのあ
たりにも注目していきたいと思っ
ています。

新入正会員自己紹介

硬軟織り交ぜ、バタバタと

旗本浩二

1965年、神奈川県生まれ。91
年に読売新聞社に入社し、山形支局
勤務などを経て、97年から文化部で
放送を担当。その後、2年間、再び
山形に赴任したり、2年弱ですが演
劇を担当しましたが、あとはすべて
放送分野を取材させていただいてお
ります。

文化部の他の部門と比べ、番組と
いうソフトそのものの取材に加え、
ハード面、すなわちメディアならで
はの取材をしなければならぬ点が、
放送担当の特殊性です。ドラマやド
キュメンタリーの内容、出演者の裏
話、演出の在り方などを取材する一
方、視聴率競争など各局の経営課題、
インターネット社会との対峙、NH
K特有の受信料問題、地方民放の在
り方などにも目配りせねばならず、
ずっとバタバタと走り回るだけの
日々でした。そんな折の入会となり、
ぜひともこれまでお会いできなかった
方々とお話しさせていただき、記
者のみならず、人間としての知見を
広げたく思っております。

日本民間放送連盟（民放連）に職を得、1994年から働き始めてはや20年。雑誌『月刊民放』の編集に携わって6年です。その間、机を並べて働いている仲間が作っている新聞『民間放送』の応援取材でギャラクシー賞の表彰式や「制作者と語る会」などにかがう機会を得てきました。これがこの会とご縁の始まりでしょうか。

私は静岡県出身で福島県でも暮らしたことがあります。この経験から思うのは、身びいきもありますが、地方文化の多様さです。就職後、各地への旅によってさらにこの思いを強めました。ですので、ローカル局をもっと元気に、地方文化の担い手に、などと願っています。

このたび報道活動部門の選奨委員に、とお声をかけていただきました。微力ではありますが、お役に立てれば幸いです。コンクールに出品する作品ではなく、各局の普段の報道に触れられる貴重な機会になるかと期待しています。

第16回「みんなでテレビを見る会」のお知らせ

■日時：2014年7月11日（金）18:00-20:30

■場所：東京大学本郷キャンパス 工学部2号館9階92B教室 <http://media-journalism.org/access>

■主催：東京大学情報学環丹羽研究室
東京大学大学院博士課程教育リーディングプログラム多文化共生・統合人間学プログラム（IHS）
「情報・メディア」ユニット
NPO 法人放送批評懇談会

参加無料です。申込は不要です。参加ご希望の方は、当日直接、会場をおたずねください。

■上映：『ニッポンの性教育 セックスをどこまで教えるか』（中京テレビ、48分、2013）

■ゲスト：安川克巳さん（中京テレビ）

■内容：

テレビアーカイブを活用して、みんなでテレビ番組を見て語りあう連続ワークショップ。今回は2013年に放送され、第51回ギャラクシー賞優秀賞を受賞した『ニッポンの性教育セックスをどこまで教えるか』を取り上げます。

現在、日本では性教育に対して、文部科学省のはじめ規定があります。これは、2005年ごろに国会で一部の学校の性教育を行き過ぎだと問題視する動きや、「過激な性教育」に対するメディアのバッシングがあったためです。

しかし一方で、望まない妊娠など、性に関する問題は増加しています。その理由のひとつに、十分な性教育を受けられず、そうした問題を避けるための知識が若者に備わっていないことが挙げられます。

セックスをどこまで教えるべきなのでしょう。あるいはどうすれば「適切に」教えることができるのでしょうか。この番組は、そうした問題に鋭く迫ったドキュメンタリーです。

ゲストには、制作者の安川克巳さんをお招きし、取材時のエピソードなどをお聞きするとともに、現在の性教育やその報道のあり方について議論したいと思います。

■お問い合わせ：東京大学情報学環丹羽研究室
<http://media-journalism.org/project/tv-archive> tvarchive.project@gmail.com

*写真・映像・音声などを記録することとその記録されたものをプログラム活動で使用する可能性があることをご承いただいた上でご参加ください。

